

## 実際の翻訳に役立つ、現場から生まれた翻訳一口メモ

翻訳にあたってのヒント

その 11

全翻協 7 月勉強会参加者各位殿：

今回は、約 10 年前に商品先物市場のアルバイト翻訳時代に作成した私用辞書（ここに抜粋したものはその中のほんの一部）から、証券・株式市場や商品先物取引市場でよく使われている覚えておくと便利ないろいろな英語・日本語表現や予備知識をご紹介しますと思います。市況や経済関係の翻訳に携わっておられない方でも、絶対に役立つ表現ばかりですので是非ご活用いただければと思います。

1997 年 7 月記

### 1. 騰落のいろいろ

#### 上 昇

騰貴（上向き）	go up, rise, mount, elevate, etc.
前進	advance, forge ahead, surge forward, gain, etc.
急騰/暴騰	jump, shoot, spurt, soar, skyrocket, sharprise, etc.
明るくなる	brighten (up), firm (up), harden, stiffen, strenghthen, etc.
ギリ高	edge (up)
にじり上がる（回復）	edge back
下がったのが盛り返す	improve, recover, revive, regain, pick up, rally, etc.
前よりも高くはね上がる(反騰)	rebound
はね上がる	shoot up

#### 下 降

普通に下落	go down, fall, decline, lose, etc.
ちょっと下がる	dip, ease, shade, soften, etc.
急落	drop, slump, sharp drop, etc.
暴落/崩落	plunge, tumble, break down, collapse, toboggan, etc.
上がっていたのが下がる	react (反落)、slip (off/down), slide (off/down), etc.
後退	fall back, work back, recede, retreat, etc.
ゆるむ	weaken, slacken, relax (相場が下がり気味になること)

#### 上下方向

rule

文例： The market (or price) ruled high today. (今日の相場は高かった。)

±方向・程度 change, move, fluctuate, etc.

～%増 + ...%

～%減 - ...%

### 一般的な立会時間 (Trading hours)



### 上昇も下降もしない一定の状態

erastic/roller-coaster ride 乱調 (高) 下/子

(\* roller-coaster ride とは、文字どおりジェットコースターのような、ジグザグした動き [乱高下] を示し、roller-coaster は、乱高下～を示す形容詞として使われる。)

fluctuate	浮動する、変動する
baking & filling = sea-saw(ed)	もみ合い (相場の小幅な上げ下げの繰り返し)
barely maintained = barely steady	弱もち合い (もち合い [保合] とは、相場が上にも下にも動かない状態のことを指す。)
stabilization	焦げ付き (焦げ付きとは、相場が上下いずれにも動きにくくなって、取引も少なくなった膠着状態のことを指す。)
irregular (= mixed)	マチマチの
isolated = scattered, sporadic, spotty	マバラな
sluggish	超閑散な、不活発な
slack	閑散な、不活発な、緩慢な
stagnant	不活発な
idle	緩慢な
slacken	ボケる (相場が不活発になること)
heavy	頭重い
quiet but steady	閑散ながらしっかり
nominal	気配値/相場
break through	抜く、割る
featureless	目立った動きなし

---

↑	暴騰
+100	ストップ高 暴騰
+90	
	急騰
+80	
	急伸
+70	
	上伸 (続伸、反発)
+40	
	堅調
+15	
	小幅高

±0

小幅安

▽15

軟調

▽40

下落（続落、反落）

▽70

急落

▽80

暴落

▽100 ストップ安

↓

暴落

## 上 昇

strong 強調

状 firm-buoyant 堅調

態 harden=firmer=steadier 引き締まる

steady しっかり

skyrocketing 青天井

単 soar 急騰する

線 roar 急伸する

run up = mark up 上昇する

lift 上げる

逆 regain=recover 戻す、持ち直す

線 rally 反騰する

react 反発する

## 下 降

erode ジリ安を呈す、引き緩む=easy, easier, ease, etc.

状 sag ジリ安を呈す、引き緩む (sagging tendency ジリ安歩調)

態 soften 小安くなる

be shaded 小緩む、小安くなる

直線  
smash 大暴落  
slump 暴落  
collapse 崩落  
plunge つっ込む  
slip 低落する、値を下げる  
fall 同上  
lose 同上  
sliding ジリ安をたどる  
wear off 同上

逆線  
back off 反落する  
slip back 同上  
set back 同上  
recede ジリ安を呈す、下押す  
scale down 押し目である

## 活況

active, brisk, spirited, buoyant, booming, etc.

## 沈滞、不況、閑散

inactive, dull, flat, quiet, stagnant, depressed, hesitant, reluctant, etc.

## 変化なし

unchanged, stationary, calm, lull, etc.

## 小さな変動

irregular, uneven, unsettled, mixed, etc.

## 敏感に激しく上下

sensitive, feverish, wild, erratic, etc.

軟弱 weak

軟調 easy

鈍調 dull

## その他

fancy price 異状高相場

limit up = limit rise ストップ高 (値幅制限いっぱいの上げ)

limit down = limit decline ストップ安 (値幅制限いっぱいの下げ)

## 2. 格付け (grading) の例

米 綿

Middling Fair (M.F.)

Strict Good Middling (S.G.M.)

Middling (M.I.D.)

Strict Low Middling (S.L.M.)

↓

Good Ordinary (G.O.)

↓

Good, Ordinary

エジプト綿

Extra

Fully Good

Good

Full Good Fair

Good Fully

Fully Fair

Middling Fair

Middling

一般的な品質描写

上 等

A1

First-class

First-grade

High

Fine

Superfine

Excellent

Superior

Prime

中 等

Second-class  
Second-grade  
Fair average  
Average  
Middling  
Medium  
Common  
Ordinary  
Usual

下 等

Third-class  
Third-grade  
Low  
Inferior  
Bad  
Poor  
Below average  
Below standard

余録： 気象の等級

階級	Wind scale (風力/風級)	Beaufort scale (Beaufort's wind scale) ビューフォート風力階級 (数字は時速マイル)
0	Calm 静穏	No. 0 calm: 静穏・煙突の煙がまっすぐ、1以下
1	Light air 至軽風	No. 1 light air: 至軽風・煙が曲がる、1-3
2	Light breeze 軽風	No. 2 light breeze: 軽風・木の葉がゆれる、4-6
3	Gentle breeze 軟風	No. 3 gentle breeze: 軟風・小枝が絶えず揺れる、7-10
4	Moderate breeze 和風	No. 4 moderate breeze: 和風・砂ぼこりが舞い上がる、11-16
5	Fresh breeze 疾風	No. 5 fresh breeze: 疾風・葉の茂った小枝がゆれる、17-21

6	Strong breeze 大風	No. 6 strong breeze: 大風 (雄風)・大枝がゆれる、22-27
7	Moderatge gale 強風	No. 7 moderate gale or near gale: 強風・風に向かって歩行困難、28-33
8	Fresh gale 疾強風	No. 8 fresh gale or gale: 疾強風・小枝が折れる、34-40
9	Strong gale 大強風	No. 9 strong gale: 大強風・屋根瓦が動く、41-47
10	Whole gale 全強風	No. 10 whole gage or storm: 全強風・樹木、家屋が倒れる、48-55
11	Storm 暴風	No. 11 storm or violent storm: 暴風・被害広範囲に及ぶ、56-63
12	Hurricane 颶風	No. 12 hurricane: 颶風 (大暴風)・被害猛烈をきわめる、64-71 あるいはそれ以上

3. 浜中泰男 (銅の不正取引で二六億ドル [二千八百五十億円] の損失を出した住友商事の元非鉄金属部長) の手口 [今から約 10 年前に起きたマネーゲーム事件! そういえばこんなこともあったなあ〜と思い出していただけるだけでも、こちらとしてはうれしい限り! ?]

銅市場の5%を動かす「ミスター・ファイブ」あるいは「ミスター・コッパー」としてその一挙手一投足が市場の注目を集め、年間一千億円単位の銅取引を手掛け、表面上は三十億〜四十億円 (月額にして約三億円、日額にするとなんと約一千万円である!) の利益を稼ぎ出したと言われているこのマネーゲームの大御所が、十年もの間、死に物狂いで隠し通した不正取引の手口の一部を、市況用語を話題に取り上げたついでに裏知識としてご紹介します。(この資料は、何回かにわたって某新聞で特集が組まれたものを個人的にまとめたものです。)

また、最近では、ホリエモンのライブドア事件やその悪知恵師匠の村上ファンド事件なども記憶に新しいところですね・・・。

浜中が得意としてきたのは「ロング」(先物の買い越し) のポジション (持ち高) を取ったうえで銅の流通量を抑えて現物価格の上昇を狙い、利ザヤを稼ぐいわゆる“スクイーズ” (締め上げ) という手法であった。

通常の銅取引では先物価格は金利と倉庫保管料の分だけ現物価格を上回るのだが、浜中のスクイーズが始まるとしばしば現物が先物より値上がりする「逆ザヤ」状態になったという。この手口で、例えば、九五年七月に一トン当たり二百ドル、同十二月には三百ドルの逆ザヤがもたらされた。このような現物の流通量の締め上げが可能だったのは「住友が LME



(ロンドン金属取引所：世界の銅地金取引の八十%が集中している)の銅在庫の半分、時には七割を押さえていたからだ(市場関係者)といわれる。

だが、九三年頃から銅の先物取引に米ヘッジファンドが参入、市場に巨額の資金が流入し始めた。ヘッジファンドは「逆ザヤ」状態がいずれ解消されると見て「ショート」(先物の売り越し)のポジションを取り、大量に売り浴びせて価格を下げようとした。浜中は懸命に買い支えたようだがそれには限界があった。このころから浜中のやり方に「相場操縦だ」「市場を混乱させている」といった批判が英米市場関係者の間で高まった。

苦境を乗り切るために浜中は「買い」のパートナーとして中国コネクションを利用したとみられている。

浜中のスクイーズがいかにもすさまじかったか。例えば昨年十二月、銅の現物がじりじりと値を上げ、ついには三ヵ月先物との間に一トン三百ドル前後、+%近い価格差ができてしまった。この時、ジョージ・ソロス氏が率いるクオンタム・ファンドは「売り」で手痛い打撃を被ったといわれ、浜中には「ソロスに勝った男」という異名もついた。

しかし、年明け以降から、英米当局が銅相場の「異常な値動き」の調査に着手したと同時に、パートナーであるはずの中国企業が徐々に浜中のスクイーズに反する動きを始めた。五月に入ると「中国は近く二十万トン市場に放出する」といった情報が駆け巡り、銅の値崩れに一役買った。

これ以降から六月半ばまで銅相場は八百ドル近くも下落し、中国企業は完全に「売り手」に回り、「住商はこの数週間で十億ドルの損失を被った」という推測が市場関係者に広がった。

中国企業の“変質”の理由は不明だ。「異常な値動き」を調査していた米当局が、中国企業の銅取引がマネーロンダリング(資金洗浄)に利用されているという疑いを強め、「それを察知した中国コネクションが手じまいを急いだ」という見方が日本の金融関係者などの間で出てきている。

浜中と連携していた中国企業は中国要人一族のファミリー企業の一つともいわれ、米中政治レベルの思惑も絡んだ様々な臆測も乱れ飛んでいる。また、浜中と関係のある銅トレーダーの人脈をたどっていくと、中国はもとより、米英、ドイツ、ベルギーさらにチリにもネットワークは広がっていくという。

いずれにしても、この事件の全容はいまだに闇の中にあります。一片のファクシミリで三百億円、四百億円という資金を一人の男が引き出せ、それを会社は知らなかった、有印私文書偽造がその原因だと言ひ張り、非鉄部門がずっと黒字を計上していたことと、本人(浜中)に全幅の信頼を置いていたことから、個人の単独行為であって誰も加担しなかったとして告訴・引責辞任させたこの事件が生まれた背景には、赤字部門は目を皿にしてチェックするが、「黒字が出ていれば目もくれない。もうかりさえすればそれでいい」といった商社の風潮がその温床になったのではないとも言われています。

以上、一口メモでした。